

# イマーシブシアター 新ジャポニズム ～縄文から浮世絵 そしてアニメへ～

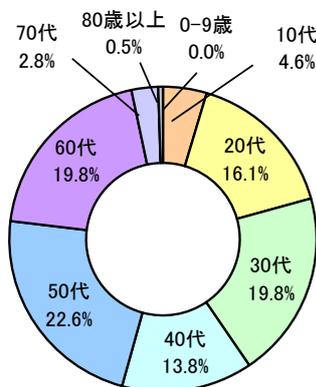
## アンケート集計結果

令和7年3月25日（火）～8月3日（日）（116日間）

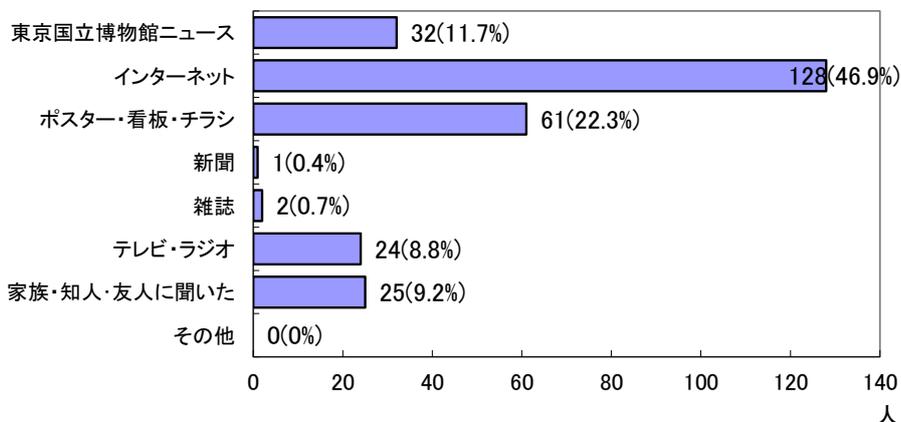
総入館者数：106,871人

回答者数：217人

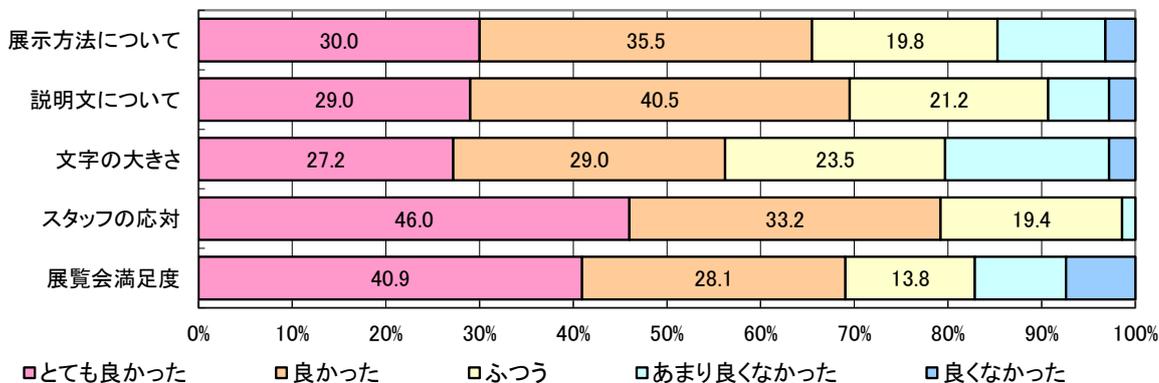
### ①アンケート回答年齢層



### ②認知経路（複数回答）



### ③展示に関する満足度



### ④主な意見・感想

- ・大画面で作品の細かいところを見られてよかった
- ・ナビゲーターの横浜流星がよかった
- ・内容が入門編のように思え、専門性の高さを期待していたので料金を高く感じた
- ・映像だったため、体験するというより鑑賞する、という感触だった
- ・多言語対応をもっと充実させてほしい（英語字幕の配置が見づらかった）

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示方法	11.5	3.2
説明文	6.5	2.8
文字サイズ	17.5	2.8
スタッフの対応	1.4	0.0
展覧会の満足度	9.7	7.4

(%)

本展「イマーシブシアター 新ジャポニズム ～縄文から浮世絵 そしてアニメへ～」は、本館特別5室の構造を利用し、当館所蔵品の数々を高精細映像による鑑賞や著名なアートディレクターへのインタビューを通して、日本の文化・美術史を総覧するものとなっており、10万人を超える方にご来場いただきました。

作品を展示しない高精細映像のみの上映という新たな取り組みに対して、新規性や、文化財を肉眼では捉えられない微細な部分まで鑑賞できる手法は高評価をいただきました。

また、イマーシブシアターの会場について、四方をスクリーンに囲まれた中で、椅子等のレイアウトや空調管理など、より快適な観覧環境を期待される意見もありました。

全体的に、日本美術史の主だった作品の登場や日本美術の入門編としてお楽しみいただいた一方で、通常の特別展のような実物展示による専門性を期待していた来館者からは物足りなさがあるとの意見もありました。また、価格設定等の運営面へのご意見も寄せられるなど、新たな取り組みに対する期待と改善に関する意見が寄せられました。

頂いたご意見ご感想を参考にさせていただき、引き続きより良い展示に努めてまいります。